（郵信省認可）　（本號六面）　明治二十三年三月四日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千五百八十三號　火曜日
明治廿三年三月四日
舊暦庚寅正月十四日　（甲申）

日出午後六時九分　入午後五時三十七分
月出午前四時三十一分　入午前四時十一分
滿潮午後四時三十一分　干潮午後四時三十分

（西暦一千八百九十年）

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送費併料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送ルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上	七日以上
一行ニ付十二錢	十一錢	十錢五厘	

月曜日并ニ大祭祝日ノ翌日等ハ新聞紙ノ休刊日ニ限リ時事新報配達ノ求めニ應ジ此場合ニハ新報代價一箇月前金八錢にして地方ニ郵送スル分ハ此外ニ貼用スル郵便印紙の代價を申受ク可し

時事新報

遂に學問の力に勝つと能はず

日本商業上の仕組は維新の前後より引續き多少の變遷を逐ひ内外の交渉ともに繁雜に赴きたるもが此際外國貿易等都て新事業に從事して寒貧より俄に身代を造りの少なからず蓋し風潮に乘會して經濟社會に重んぜらるゝも今は歴々たる紳商とおりて經濟社會に重んぜらるゝも英雄豪傑は幾多の競爭者を排して自から能く立つ者かれば多くは拔群の才能を備へて名實ともに恥ずべきものありと雖も今の紳商則ち暴富家が維新變革の時に徒手空拳を揮ふて身を立て家を興したるは果して由來する所の才能ありしやと云ふに我輩は決して然りと答ふる能はず抑も人生の事を成すや競爭あるより甚だはなし唯ふれあるが爲めに必ず身を獨立にして各種の妨害を排除せんことを勉むるあれども無人の境に入りて馳驅進退するは何人も恐て難しとする所に非ざるなり維新前後商運變革の當時に於て彼等商人は如何なる競爭に出逢ひたるや資力あり熟練ある者世に少なからざりしかども唯祖先傳來の家法を墨守して容易に動かざる者のみなれば喩へば眠れる獅子と同樣にして却て危害を加ふるに非ず其餘は士族の一類にして學識あり才幹あり若しも正々堂々の陣を以て利場に相對するときは所詮相所の難しと雖も幸にして政府は生來者を求めて利を知らず治國平天下の一方に志して議論獨り高く一武士は喰ねど高揚枝」を以て得々自ら誇り手腕の策の如きは有るせしき下賤の所爲として互利目前に樣はると雖も之を視ること敝屣の如く素町人と伍を同うして競爭の仲間入りせん抔と試更に存し想もかかりしとあれば彼等商人の爲す所は治も人の意慢に乘じて奇利を占斷したる迄にして本來商賣上の技術見識とは特に見る可きものなく唯手先の才覺を以て俗事を料理し偶然の僥倖を得たるのみ之を稱して俗富と云ふも可からんか讀者或は我輩の言を以て漫に今の紳商を悪評するものと誤解するもあらんかなれども試に其今日の生活散財の跡を一見しても當初の事情を推察するに足る可し當ふ當邊の嚴命に畏が種々樣々の議論ふ服從して心に思ひ命を投するとあれども私に發起して世の文明を助けたる者あるを聞かず未來の社生を願ふ者

（定價金二錢）

院を建立し浮財を喜捨する者はあらんなれども將來の文運を思ひ自家の教育を重んじて私に學校を設立し私ふ學事に金を費したる者は甚だ稀なるが如し其他肉體有形の快樂を買はんが爲めには居室庭園を飾ひ別莊接屋敷を買ひ時としては一夕千金の豪遊も敢て辭せずと雖も一歩を進めて形而上の事に至るときは一切漠然として工風を勞するとなし其學問思想に乏しきや知るべきのみ然るに一方を顧みて文明商賣の形況を視察すれば其規模いよ〳〵大に変て其關係物も數理外の運動を畔さゝるふふ工は振旱や依頼すべくもあらず學問教育の原質なきものが如何にして能く此際に處すべきや嚴に其運命を算するに今後の天運敢て甚だ永きにも非されば一身一生の間は所持の金光を借りて無難に經過するを得べしと雖ども當二世三世に至れば命數ふゝに循環して乃父乃祖が未だ產を成さゝるの初めに還り遂に落路の人たるを得ず如何とおれば本來父祖は文事の事業らずして高尚なる思想に乏しく子孫の養育を等閑に附して家門の俗風を成し不學自から甘んじて智て省みる所あければ今の商家ふして學問教育を輕んじ學事を蔑視して學者を度外するは昔の武家はして武事を意るに異あらず家の衰頽あからんと欲するも得べからず奢もなき子孫の爲ふは氣の毒の至りなれども大勢の傾く所は復た之を如何ともするふ由あし故に彼の俗富家が心身を一轉して正實活潑なる學問社會に同化すれば甚だ如なれどもいよ〳〵然らずして其運命も爰に定まるとすれば代て取る者は果して何人あるべきや彼の敗するや學問の思想に乏しきが故なりとあれば之に勝つ者は文明進取の學者ならざるを得ず即ち優勝劣敗の約束なれば今の講學有爲の青年輩は撥亂反正の好機會ふ逢ふ者と云ふも可ならんのみ

官報

○警察令第五號

明治十八年（一月）甲第一號布達並明治二十一年（十二月）警察令第十九號中左ノ通改正ス

甲第一號布達甲（之ニ違犯シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラル可シ）ヲ（之ヲ犯シタル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス）ニ

警察令第十九號中

第八條　本則ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ依リ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第一條第二條第四條ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下又ハ五十錢以上一圓二十五錢以下

二　第三條第五條第六條第七條ハ刑法第四百二十七條第七條第八項ニ依リ二十錢以上五十錢以下

明治廿三年　三月　三日

警視總監子爵田中光顯

警視廳甲第一號布達（明治十八年一月三十一日）

自今相撲興行ハ警視廳ニ願ヒ出ツル可シ

警察令第十九號（明治二十一年十二月二十九日）抄錄

第八條ノ違警ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

○警察令第六號

明治十八年（一月）甲第一號布達ヲ廢ス

明治廿三年　三月　三日

警視總監子爵田中光顯

警視廳甲第一號布達（明治十八年一月六日）抄錄

競賭等ノ目的ヲ以テ街上又ハ河中ニ於テ仕掛ヲ設ケスルヲ禁ス若シ之ニ違犯シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラル可シ

○警視廳告示第五號

明治十八年（十月）告示第十一號ヲ廢ス

明治廿三年　三月　三日

警視總監子爵田中光顯

警視廳告示第十一號（明治十八年十月八日）

明治十七年（十二月）第三十一號布達ニ依リ製取締ノ爲ニ設ケタル醸造場等ハ總テ本廳ニ於テ取扱候條此旨心得ベシ

雜報

○横濱蠶絲貿易事情（前號の續）

十九年間生絲相場の高低（續）　十二年伊太利蠶の不作により六百七十五弗以上に進み少しく引き緩みて五百八十弗以下となる此年肉商始めて直輸を為す　十三年、二月下旬六百八十弗に上りしも又下落して四百四弗となる　十四年、支那絲不作の爲め六百二十弗に上り年末ふ至り引き緩和年末の在荷一萬七千百餘細なり此年九月隣邦生絲荷揚所の閉業あり人心忽ち苦惱を生じ僅かに二箇月を經て解業せり　十五年一月下旬五百弗より六月に至り五百四十弗迄となり又下りて四百八十弗以下となり九月五百十弗に上り又小緩み　十六年、五月四百六十弗に下りしが六月佛國蠶蠶の思はしからざる電報あり新絲の時ふは五百六十弗と為る此年肉商始めて直輸を為す　十七年、支那絲病流行の風説あり五月上旬五百弗に進みし間もなく清佛の戰爭藤結んで解けず愈々血を流すに至り新絲取引さへ四百二十弗に過ぎず戰爭の最も激しき頃は四百弗以下に落ち歐洲市場の支那絲は滯留し横濱の在荷も一萬三千内外を以て年を越したり　十八年、二月には前年七月より二十弗上りしが三月下旬以來アフガニスタン占領の件に付英露の間に際を生じて戰ふすれば平和を破らんず勢あり加ふるに伊清兩國とも養蠶上作ありしかば愈々下落して七月に至り三百六十弗以下となり明治八年の最低價より猶ほ低きと二十餘弗なり而して歐洲全般の商業も頗る不振にして景氣回復の見込とては更に立たず十月ふ至り歐洲の絲價は其極低に達し在荷殊に少數なりし頃供國商人買入れを始め十一月初めより稍や勝貴の模樣を現はせり　十九年、前年末より次第に上つて二月には五百九十弗迄に至りしが新絲の頃には又落ちて四百八十弗となりし折柄伊國蠶病の報及支那絲減量の報をなすものあり八月下旬は外國爲替相場非常に下落したれば漸次回復の色あり十月上旬歐米市場好況の報あり十一月六百五十弗以上に勝りたり此時取引高も頗る巨額なりしが一方よりは出荷も益々加はりて年末在荷は二萬二千四百餘なりし　二十年、二月獨佛戰爭の噂あり五月伊佛の養蠶上作の報に接し新絲の頃は四百八十弗に下りたる間もなく伊國養蠶一割二分減量の報あり八月中旬佛國に投機商現はれ一時好況を呈し八月下旬五百八十弗近くに進みしが遠晩ふ至り米國市場に先買をなすものありとの報に接し市況稍や振はず二十一年、前年末より不振なりし上に三月中旬獨逸帝崩じ歐洲の人心安からず然かのみならず佛伊養蠶上作の報ありしかは新絲の頃は四百五十弗に下りしが清國の養蠶二割を減じたる報あり七月下旬佛國市場ふ生絲買占めの法買ひ進み十月下る折柄佛國と同く再び買進み五百二弗かりし二十二年絲前の在荷は一千まり十一月十九日六百十五弗の少下れば平均百弗方の減せしと佛國大博覽の養蠶不出來にし因れり

以上十九年間の相場の跡を推せば需用供の振も多き時期には ち新絲前なとはいつ又横濱絲價の變動は外論のとおれども其は横濱在留の外商に引に因り成り立つも場歐米の市場より高きとあの好況氣なるを聞きの値引は敢て高きに藤にして昨今の相場淡く味甘きを以て本出地よりも高き時はなり

○龍野の醬油、官私關西の名產ふして關ふれば年々他地方ふきも六七萬樽を下らず

横濱よりも高きとあの好況氣なるを聞きの値引は敢て高きに藤にして昨今の相場淡く味甘きを以て本出地よりも高き時はなり

○龍野の醬油、官私關西の名產ふして關ふれば年々他地方ふきも六七萬樽を下らず

場ふ生絲買占めの法買ひ進み十月下る折柄佛國と同く再び買進み五百二弗かりし二十二年絲前の在荷は一千まり十一月十九日六百十五弗の少下れば平均百弗方の減せしと佛國大博覽の養蠶不出來にし因れり

以上十九年間の相場の跡を推せば需用供の振も多き時期には ち新絲前なとはいつ又横濱絲價の變動は外論のとおれども其は横濱在留の外商に引に因り成り立つも場歐米の市場より高きとあの好況氣なるを聞きの値引は敢て高きに藤にして昨今の相場淡く味甘きを以て本出地よりも高き時はなり

○龍野の醬油、官私關西の名產ふして關ふれば年々他地方ふきも六七萬樽を下らず

損ふ生絲買占めの法買ひ進み十月下る折柄佛國と同く再び買進み五百二弗かりし二十二年絲前の在荷は一千まり十一月十九日六百十五弗の少下れば平均百弗方の減せしと佛國大博覽の養蠶不出來にし因れり

以上十九年間の相場の跡を推せば需用供の振も多き時期には ち新絲前なとはいつ又横濱絲價の變動は外論のとおれども其は横濱在留の外商に引に因り成り立つも場歐米の市場より高きとあの好況氣なるを聞きの値引は敢て高きに藤にして昨今の相場淡く味甘きを以て本出地よりも高き時はなり

○龍野の醬油、官私關西の名產ふして關ふれば年々他地方ふきも六七萬樽を下らず